



第1139号
2009年10月18日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇10月の代禱・信施奉献先
▽浅草聖ヨハネ教会日曜給食活動のため▽月島聖ルカ保育園のため▽こどものためのミニストリーの働きのため▽教役者緊急援助資金のため(10月第3主日)▽社会事業の日(特定25)

《奉献先から》

教役者緊急援助資金

教区の諸基金・資金は、1994年3月の教区会決議により、整理統合され現在に至っています。その一つに教役者緊急援助資金があります。かつては「教役者救恤(じゅつ)資金」とよばれていたのですが、「憐れみ的心」(恤||じゅつ)から退職者を含む教役者とその家族の、災害や疾病等による緊急事態を援助するために支給する資金です。

この資金の円滑・タイムリーな対応等のために内規が定められています。(司祭 鈴木裕二)

◆教役者レクイエム

10月21日(水) 午前10時半

主教座聖堂

説教 竹田眞主教

▽司祭山田次郎▽主教松井米太郎▽司祭河合良隆▽司祭遠藤敏雄▽司祭青木毅三

▽主教八代斌助▽主

教高瀬恒徳▽司祭牛

島惣太郎▽司祭副島

虎十▽伝道師長尾よ

つ▽伝道師前田華江

▽司祭坂下内匠▽主

教山田襄▽司祭竹之

内瑞男▽司祭岡精三

▽司祭速水敏彦▽司

祭津田昌男

今週・来週の予定

10月18日~31日

- 18(日) 聖霊降臨後第20主日
主教巡回 聖ルカ礼拝堂
- 19(月) 城南G 牧師協議会
- 21(水) 教役者レクイエム
信仰と生活委員会
- 22(木) 信仰と生活: 講演会②
- 25(日) 聖霊降臨後第21主日
主教巡回
聖ガブリエル教会
- 27(火) 銀座朝拝会
ハラスメント防止委員会
教区企画室
- 30(金) IT~特別委員会
- 31(土) 城南G: セミナー

◆とこしえの平安

- 9月17日 村島 恵子(57)
- 9月17日 渡邊登志子(66)
- 9月28日 児玉 初枝(78)
- 9月29日 岩野 恵子(86)
- 聖ガブリエル 聖ガブリエル 聖三一 聖十字

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

80才になる私、元気が不思議でならない。体の弱い病弱な子どもで、学校に通えても入退院の生活で成長出来、日曜学校やジュニアチャーチなど教会のご奉仕に参加できたのは、病いの時、いつも病床に来てくださった故關 翊司祭の熱い祈りと導きの賜物と感謝し、忘れることは出来ません。後、美容師を志し佳境に入った時、昭和29年大 略血し、3年間の療養中、肋骨の6本を切除し、社会復帰し、結婚し、独立してからは病気とはまったく縁がなくなり50数年間、閉業するまで、人の二倍以上働きました。その間教会とのかかわりは、神様が与えてくださった技術の一つを生かした仕事は、妻の力強い

《み手のなかで》

時を重ねて

サポートによって教会での結婚式の御仕度でした。その間何百組の方々と共に司祭様、信徒との交わり、それは豊かな恵みでした。教区の行事や礼拝のとき、その方々と、新たに交わりを深めることが出来ることこそ「御手のなかで」の証しと信じます。

今、信使奉事者として、礼拝奉仕に参加できる恵みに感謝あるのみです。子どもの頃からの祈りが「み手のなかで」暖かく包んでいただけに、今、元気が限り、私と妻と共に身につけた技術を出しつくして、一人でもこれを喜んでいただけることを始めることが出来て、永く続けられるように、恵みの「力」が得られますよう祈っています。主に感謝!

(東京聖十字教会信徒)

日本聖公会宣教150周年 礼拝をお支えくださった 東京教区の皆様

主の平和がありますように。

先日の日本聖公会宣教150周年礼拝とその前日の立教大学での行事などで、皆様には大変お世話になりました。礼拝の準備、聖歌隊、設営から会場の整理、案内、受付、後片付けなど、そして私たちの見えないところでの各種のご奉仕、誠にありがとうございます。ありがとうございました。今回、記念礼拝に集まった3000人近い人々が、あのような感動的な礼拝をともしお捧げすることができましたのは、皆様のおかげであつたと感謝いたしております。準備の段階から当日まで、お心のこもつたご奉仕がありが

とうございました。皆様の中には、礼拝に参加することができなかった方たちもおられるとお聞きしました。別室で預かった荷物の番をしてくださいました方や、外で交通整理をしてくださいました方、海外からのゲストの送り迎えのお世話をしてくださった方など、皆様の犠牲を伴うご奉仕が今回の素晴らしい礼拝の陰にあつたことに深い感動を覚え、お一人おひとりに感謝を申し上げます。

カンタベリーの大主教を始め、海外からのゲストたち、また日本の各教区からの参加者たちは、今回の150周年行事と礼拝に深い感銘を受けておられました。これも皆様に感謝してお伝えいたします。皆様のご

奉仕に主が豊かに報いてくださいますよう、そして皆様の上に主のお恵みと祝福が豊かにありますようお祈りいたします。

2009年10月9日

日本聖公会首座主教

ナタナエル 植松 誠

(北海道教区主教)

東京教区主教

ペテロ 植田仁太郎

(宣教150周年記念礼拝

実行委員会委員長)

正義と平和協議会

運営委員会報告(10月5日)

* 宣教主事、その他による諸活動報告と情報交換。

* 三教区生野委員会発行の講演録2冊、並びに本田哲郎神父の講演DVDを資料として各教会

二つの要素は、日本聖公会とその使命を特徴づけるものです。

日本聖公会は、占領と戦争の暴力への加担を悔い改めたことで、世界のキリスト教徒に勇気ある手本を示しました。心の貧しい人にとって、傲慢や自己弁護は不要です。彼らはただ真実を語り、たとえ痛みを伴い恥ずべきものであつても。この真実を通して、道、真理、いのちを分かち合い、天の国の実現を目指すのです。日本聖公会の謝罪は韓国にも大きな影響を与えました。日本聖公会の証がなければ TO D I K (Towards Peace of Korea) の取組は不可能だったでしょう。

二つ目の祝福は、義のために迫害される人々に与えられま

す。現在、日本聖公会が直面する課題は、これまでの150年間と同じです。いかに信仰の人、心の貧しい人、正義の人となるか、これらの価値を必ずしも大切にしない文化の中において…。自分の周りの社会を天国へと変えていけるかどうかは、19世紀の宣教師たちのように、この三つの価値を生きるかどうかにかかっています。地域に根ざす教会は、バチンコ店やアニメ、匿名の群衆が溢れる都会で福音を語っていかなくてはなりません。過去にそうであつたように、日本聖公会は現代においても、それを成し遂げるこ

とができるでしょう。皆さんの証は、とくに同じように世俗的・物質主義文化のな

かで努力しているヨーロッパや北米の教会にとつて参考になるでしょう。皆さんは私たちに何を教えて下さいますか？ 日本の良き地に育つた種から、どのように福音を宣べ伝えますか？

【文責＝広報委員会】

* 夕の礼拝 9月22日17時、立教大学タツカーホール。

* 説教の全文 高山絵美邦訳の全文は『管区事務所だより』で掲載(第5面文末の注記部分参照)。

* キヤサリン・ジェファーツ・シヨリ総裁主教 ネバダ教区主教から2006年11月、第26代米国聖公会総裁主教に着座された。

* その他 第5面注記欄参照。

*米国聖公会総裁主教

キャサリン・ジェファーツ・
シヨウリ

今宵、私たちは、日本聖公会
宣教150周年を神に感謝する
ために集まっています。日本聖
公会のルーツが実はアメリカ帝
国主義にあることを、まず指摘
したいと思います。ペリー提督
が通商条約の締結を要求して来
航したあと、中国で活動してい
たアメリカ人宣教師が来日しま
した。神の働きは、平和や神聖
さとは無関係の出来事から始ま
ることもあるのです。

1859年、ウイリアムズ師
トリギンズ師、シュミット博士
は中国から直接日本に入国し、
医療や教育の分野で活動を始め
ました。積極的な宣教活動が許

されるまでにはさらに数年が必
要でしたが、彼らの活動は大変
重要な意義をもっていました。
19世紀半ば、聖公会をはじめと
する宣教活動は、植民地主義の
色彩を弱め、地域の独自性を重
んじる(現地化する)方向へ転
換しつつあったのです。

同時期、「宣教の現地化」論が
始まりました。自力で宣教する
力をもつ自立した教会を各地に
広めることであり、その教会の
在り方こそ、国策が変化するそ
の後数十年間の日本において、
日本聖公会が存続するために不
可欠な要素となりました。

現地化し自立した教会、自ら
の力で宣教できる教会という理
想は、預言者エレミヤの描くビ
ジョン—あらゆる場所から様々

な人が集まり、神によって全て
の家族・国々が一つにされる—
の実現を助けるでしょう。この
ビジョンはまだ実現していません
が、この地に蒔かれた種はず
でに芽を出し、実を結び始めて
います。キリストの体に属する
全ての組織と同様、日本聖公会
の使命は、天の国を映す地上の
姿として、全世界の和解全ての
創造物の和解に向けて働くこと
です。

この働きに加わるための適切
なヒントが、マタイによる福音
書の中に記されています。山上
の垂訓(5・1〜10)の最初と最
後…、心の貧しい人および正義
のために迫害される人に天の国
へとつながる祝福が与えられる
と書かれている部分です。この

に配布する(後者の一般頒布価
格は500円)。

*新規加入団体の承認。

*TOPIC(朝鮮半島の平和統
一に向けて)による北朝鮮への
牛乳支援への協力を承認。

*11月『協議会便り』の進捗。

*次回「正義と平和協議会」の開
催企画(12月5日(土)。前半を
講演会(主題『命をつなぐ働き
を指して』野宿者支援につい
てのシンポジウム)、その後協
議会開催。
*その他。

▽ソウル教区司祭合唱団第2

回来日公演 前回07年の公演で
大絶賛を浴びた大韓聖公会ソウ
ル教区司祭合唱団の再公演で、
今回は10月17日・18日の両日清

里で公演したあと、東京では19
日(月)19時から聖アンデレ教
会で。会場献金。照会先☎09
0(3539) 4365・柳時
京司祭。

▽障関連発足7周年記念イベ
ント《笑いと感動とふれあいの
ひととき》「障がい者」関連活
動連絡会主催によるメルヘン・

コイノニア再建支援のための募
金活動企画(後援・会場(聖ア
ンデレ教会)。10月31日(土)14
時半開演。出演はパントマイム

川島昭恵、落語(晴留家志ん
ぶ。入場料2千500円。照会・
申込☎042(958)586
1(担当者)。

▽礼拝音楽委員会でCDを発
売 このほどCD「今日もまた

新しく(礼拝で歌われた『日本
聖公会聖歌集』を制作し、様々
な礼拝におけるライブ音源から
全22曲を収録。各曲の解説付。
頒価千700円。申込みは教区事
務所内礼拝音楽委員会宛にFA
Xで。照会先☎1 清瀬聖母教
会・042(493)7472。

◇秋の教会バザー(4)

▽10月25日(三)光(11〜15時)・
聖パウロ(12〜15時)・神田キ
リスト(12〜14時)・聖ヨハネ
(12〜14時)・聖三一(12〜15
時)・目白(12〜14時)のみの
市)・聖十字(11・15〜15時、
ミニコンサート14〜15時)・聖
マーガレット(12半〜15時)・
立教チャペル(10〜13時頃)・
聖マルチン(12〜15時)・聖。パ
トリック(11〜14時)

【クローズアップ】27
日本聖公会150周年記念
スペシャルⅡ礼拝説教「要旨」

▽：記念礼拝と、記念プログラ
ムⅡの祈りでそれぞれ語られ
た、カントベリー大主教と米国
総裁主教お2人の説教を、要旨
訳でお届けする特集コラム。

*カントベリー大主教

ローワン・ウィリアムズ

日本を指した聖公会の宣教
の働きは何人かの巨人とも言う
べき人々によって始められまし
た。これらの人々の筆頭は、私
たちが記念しておりますチャニ
ング・ウィリアムズ主教であり
ました。しかし本日は、日本聖
公会の性格と方向性を決定づけ
たもう一人の偉大な神の僕、英

国の有名な聖職の家系出身の、
エドワード・ピカステス主教を
取り上げたいと思います。

日本聖公会第2代主教E・ピ
カステス師は、名古屋の屋敷で
堅信式を司式するとき靴を脱い
で家上がり、在日英国人はこ
れを見て驚いたと言います。宣
教はしばしば「重い靴を履いた
まま」行われてきましたが、裸足
による宣教を求めべきです。

キリスト教では、裸足とはさ
まざまな意味があります。ま
ず、質素で地面を軽やかに歩く
印です。宣教はその文化や政
治、貿易の包み紙をなくして、質
素であればあるほど実を結ぶも
のです。聖パウロによれば己を
伝えるのではなく、神の約束さ
れた和解を知らせることです。

この数十年、日本聖公会の過去
の誤ちに関して公的に懺悔を表
明し犠牲者との和解を求めよう
とする勇氣は、多くの人を感動
させてきました。自分の過ちを
認めない誇りを、過去の傷をい
つまでも引きずる恨みを、手放
すことを学ぶときに和解は実現
するのです。

軽やかに歩くということは、
自らの安全と成功を持続させる
ために力を尽くす必要がないこ
とを悟ることもあります。何
が降りかかるうとも、神は私た
ちを支え、尽きることのない憐
れみをお約束くださるからなの
です。

裸足はイエスご自身に倣って
不安や傷や拒絶を受け入れる覚
悟ができていることでもありま

す。ただキリスト者の家族とい
う小さな交わりを暖かく守るこ
とだけではなく、心や体で苦し
んでいる人々と共に道を歩むの
です。日本聖公会は、社会の隅に
追いやられた人々と共に歩もう
とする姿勢を示しています。こ
れで成功や安全を保証されるこ
とはありませんが、主イエスと
の交わりをもたらずに違いあり
ません。

最後に、裸足は、燃える柴のも
とで主に会ったモーセと同
様、自分が聖なる地に立ってい
ることの印です。宣教では、誰か
に歓迎されることは、聖なる神
がそこにおられることの印で
す。私たちがどこへ派遣されよ
うとも、神が先立って行かれ、癒
そうと望んでおられる人間の命

という聖なる空間に私たちを
お導きくださいます。隣人と出
会った時、傲慢かつせつかにで
はなく、敬意をもって出会うべ
きです。

この「裸足の宣教」を継続で
きるならば、私たちはイエスご
自身の質素なお姿に、また自ら
を新たにする恵みをもたらすキ
リストの素晴らしい宣教に心を
開くことにもなるでしょう。

【文責Ⅱ司祭 ケビン・シーバー】

*記念礼拝 9月23日13時半、
カトリック東京カテドラル聖マ
リア大聖堂。関口会館を含め3
千人の会衆で埋まった。

*ローワン・ダグラス・ウィリ
アムズⅡカントベリー大主教
聖公会の世界的交わりにおける

霊的指導者。1950年ウェー
ルズ生まれ、1991年モンマ
ス教区主教、1999年ウェー
ルズ大主教となり、2003年
第104代カントベリー大主教
に着座。ウェールズ人がカント
ベリー大主教になるのは初めて
で、英国聖公会以外からの着座
も13世紀以来。

*説教全文 司祭・興石勇訳に
よる全文が、また次頁以降の
シヨリー米国総裁主教説教全文
と合わせて、『日本聖公会管区
事務所だより』第241号(09
年10月号Ⅱ各教会に配布)で掲
載されている。

*写真 2師の顔写真、および
礼拝その他の記念催事スナップ
など、東京教区HPで10数枚、
掲載中。